

参加しませんか? 秋の コープカルチャー生徒再募集!

パルコープでは各組合員会館や組合員集会所で、パルコープの組合員が講師となり、さまざまなカルチャー講座を行なっています。



- ◎組合員の方であればどなたでも参加できます。
- ◎費用は一回につき1000円以内で、講座により月に数回開催します。
- ※今回の再募集の締め切りは10月22日(金)です

申し込み 各組合員会館、組合員活動サポートセンター

問い合わせ先 組合員活動サポートセンター
 ☎0120-299-244 FAX 0120-299-230
 携帯・PHSからは 06-4801-7648
 (月・土 9:00~17:00 火~金 9:00~18:00)

★詳しくはパルコープホームページをご覧ください
http://www.palcoop.or.jp/au_tori/kouza/index.html

親子産地体験ツアー 参加者募集

生協ならではの
 生産者との交流のツアーに行ってみませんか。



美吉野農園 柿の葉寿司づくり体験

柿の葉を収穫して、五條・吉野の伝統食「柿の葉寿司」を親子で作ります。もちつきをしたり、古民家で食事をしたり、生産者との交流もありますよ。

- 日時** 11月20日(土)
- 参加費** 大人 3,000円
 子ども 1,300円(小学1年生以上)
- 集合・解散場所** パルコープ本部(京橋)
 (9:00集合 17:00解散予定)

申し込み方法

- ◎往復はがきに、①~④を記入の上、申し込みください。
- ①ツアーのコース名 ②住所 ③参加者すべての名前(ふりがな)と年齢(学年) ④電話番号
- ◎組合員コード
- ◎締め切り 10月2日(土)消印有効

申し込み・問い合わせ先

〒534-0024 大阪府都島区東野田町1丁目5-26
 生活協同組合おさかパルコープ
 ☎06-6242-0904 組合員活動事務局 岡田まで

★詳しくはパルコープホームページに掲載しています。
http://www.palcoop.or.jp/pal_news/information/tour.html
 (パソコン専用)



どのコースも
 バスで行きます

紀ノ川農協 農作業体験(たまねぎ作り)

私たちが食べる野菜は、どんなふうにしてできるのでしょうか?
 大変だけど農作業体験して、農産物の大切さを感じましょう。たまねぎ作りを体験します。

- 日時** <第1回目>11月28日(日)
 <第2回目>2011年3月27日(日)
 <第3回目>2011年5月(日にち未定)
 ※第1~3回目のすべてに参加できる方が対象で、子どもは小学1年生以上に限ります
- 参加費** 大人・子ども共 一人につき3日で3,000円
- 集合・解散場所** パルコープ本部(京橋)
 (9:00集合 17:00解散予定)

※このツアーは一般の観光ツアーとは違い、組合員に生産者や商品についてより知っていただくためのツアーで、パルコープが一部費用を負担しています。ご親族でも組合員でない方の参加はできません(同居家族は組合員です)。
 ※申し込み多数の場合は抽選し、抽選結果ははがきでお知らせします。
 ※グループでの申し込みの場合は、グループ単位で1枚のはがきにて申し込みください(必ず家族ごとに組合員コードを記入)。
 ※申し込みは1枚のはがきに1コースずつをお願いします。
 ※参加者の感想文、写真は広報・宣伝活動に活用させていただきます。ご了承ください。はがきで得た個人情報はツアーの連絡以外には使用しません。

JAIいなば

富山コシヒカリ

(小矢部市認定小矢部ブランド メルヘン米)

JAIいなば ↔ パルコープ 行ったり、来たりの関係

「COOP 富山コシヒカリ」は、20年以上前からパルコープ組合員に届けられています。

毎年、パルコープ組合員は田植え、稲刈りを経験させてもらうため、JAIいなばを訪問、また、稲刈りが終わるとJAIいなばの生産者たちはパルコープ全店を巡り、餅つきをして生協組合員と交流します。

こんな行ったり来たりの関係があります。



朝日が昇ろうとする頃、田んぼに水を引く、生産者の沼田 勝さん

「まず、パルコープの組合員さんにお知らせしてほしいんです。小矢部市で婚活パーティするので、ぜひパルコープの組合員さんの娘さんたちに来て欲しいんです」と元パルコープの宇川純矢さん(39歳)。こちらでも、後継者がいなくても、そのお嫁さんが不足していません。

朝5時、田んぼに水を入れるため取水口を開ける沼田勝さん。2~3時間で田

地域で守る 地域の共有財産

「米作りは、じつといけて楽しんでいます。生き生きもんで触ると、おうち」と言ってもらえるから。サラーマン時代はものを作って届けている感覚がある。朝5時、田んぼに水を入れるため取水口を開ける沼田勝さん。2~3時間で田



毎年、顔なじみの 生産者が来てくれます

JAIいなばさんからは、毎年顔なじみの生産者の方が東都島店に来ていただいて、パル委員さん、山平店長みなさんで迎えているんです。田植えや稲刈りに行ったことのある組合員さんは「なつかしいなあ」と会いに来たりして、まるで昔からの知り合いのようです。産地に一回行くと、とっても親しみ湧くんですね。「また来てくれはってんねえ」と声掛けられますし。また、あるパル委員さんがいないと「今年はこの人いませんねえ」と生産者さんもお話聞きたいに思ってくれて「変なもの作れない」と言ってくれます。今まで作ってきた信頼関係をこれからも大切につないでいきたいと思います。

都島南地域活動委員長 足立美恵子さん

今年は10月23日、24日に
 来店される予定です。お楽しみに

んぼに水が張れます。「この田んぼも同じじゃないんですよ。土の質、田んぼの大きさによって、水を入れたり乾かしたりするやり方が違うんです。この辺は粘土質だから、田んぼに水は入れっぱなしにせず、2~3日は水を張ったら、2~3日は乾かす、それを繰り返します。乾かすことで稲の根がしっかりと張るので。それに、独立した田んぼってというのはないんです。水源地、水路があって、田んぼがある。水源地、水路は地域の共有財産。地域全体で修理・管理しているんです。それがないと田んぼは成り立たないんです。それがあってこそ、日本の米は作られ、私たちはおいしくいただけるのですね。」

